

ロシアのシリア介入 12 週目

【訳者注】アメリカでは、自尊心が自己欺瞞に支えられて存在する。オバマというトップがそれを象徴している。このオバマ像は全くその通りで、うまい表現なのだが、彼には気の毒でもある。The Saker は、なぜそれを一言付け加えないのだろうか？ この時期に、オバマ大統領が、堂々とリーダーシップを発揮するなどということは、できないはずである。ホワイトハウスでは、「俺たちの言うとおりにしろ」と脅している声が聞こえると、デイヴィド・ウィルコックの報告にあった。矛盾したり、空威張りしたり（国連演説など）、「意志が弱」かったり、統制が取れなかったり（ケリーとの間）するのは当然ではなからうか？ ケリーについても同じことが言える。The Saker はもちろんそれを承知の上で、アメリカそのもののぐらつきを、オバマ一人に背負わせて、アメリカ評をしているのだろう。

By The Saker

December 29, 2015

ロシアのシリアへの軍事介入について、先週のレビューで、私は、今までのケリーのロシアとの交渉はすべての点でケリーが負けたこと、そして彼は A について合意するが、本国へ帰れば non-A を宣言するという外交記録を作ったと書いた。この度もまた、アメリカ人はいつもの流儀を変えなかった。ただオバマ自身はまたしてもアサドは倒すべきだと宣言し、その結果、評論家の中には「ホワイトハウスの統合失調症」だと言う者もいた。しかし他の者たちは、おそらくこの否定は、面子を潰さないためにすぎないであろうと憶測した。私個人は、この両方の説明が当たっていると思う。

<http://original.antiwar.com/daniel-mcadams/2015/12/22/white-house-schizophrenia-kerry-assad-can-stay-obama-assad-must-go/>

<https://www.rt.com/shows/crosstalk/326846-syrian-civil-war-washington/>

オバマが例外的に、意志の弱い、掴みどころのない大統領であることは間違いない。この男はビジョンというものがなく、国際関係も理解しておらず、彼の教養が最低であるのに対して、彼の傲慢はこの上ないと感じられる——彼は中身の無い形だけの人間だ。アメリカでは、こういうのが、大統領選に勝つには理想の混ぜ加減だが、しかし一度ホワイトハウスに入れば、これは悲惨のレシピでもある。このような男を政府執行部の頂点に据えたとき、政府の他の部門は、政策についての明確なメッセージが受け取れない。その結果として、彼らは大統領がどう言おうとあまり気にしないで、それぞれの考えを実行するようになる。最近の

Sy Hersh による “Military to Military” はその現象の好例である。意志が弱く、ビジョンが（それどころか理解も）ないので、オバマの主たる関心事は自分の欠陥を隠すことで、したがって彼は最も古い政治家の策に頼ろうとする——すなわち、何であれ聴衆の聞きたがることを話す。全く同じことがケリーについても言える。この二人は共に、ロシアの支配者に対し、またはロシアのジャーナリストへのインタビューでは、ある一つのことを言い、アメリカの記者には全く正反対のことを言う。このような“統合失調症”は完全に普通のことになっている——特にアメリカでは。

<http://www.lrb.co.uk/v38/n01/seymour-m-hersh/military-to-military>

Chris Hedges の造語を使えば、アメリカは“幻覚の帝国”である。アメリカ社会は、偽物に対して、それがなんとなく本物らしくあれば、明らかにいくらでも我慢できるようだ。これはどのレベルでも同じで、アメリカ人の食べる食物から、自分を思い描く自我像、彼らを選ぶ政治家、彼らの税金による軍隊の、思い込みの対的強さに至るまで、同じである。それはすべて一つの巨大なウソであるが、それが面白く、情緒的に安心できるウソであれば、構ったことではない。シリアとの関連で言えば、現実を無視するこの能力は、民主主義の名においてテロリズムを支持する結果を招き、“反ダエシュ [ISIS]” 運動を支持するが、結局それは、ダエシュが劇的に支配地域を増やすことになり、アサドが化学兵器を使ったという非難が、今度は“アサドは居てもよいが、行かなければならない”という方針が変わる。このレトリックと現実を完全に使い分ける能力は、時にはポジティブな副作用をもつこともある。例えば、今週、レトリックという点で、アメリカ政府は急ハンドルを切った(!)が、これは必ずしも、アメリカがアサド打倒を試み続けるという意味ではない。その逆もまた同じで、アメリカが、アサドは居てもよいと言ったとしても、決してアメリカが彼を倒す試みをやめたという意味ではない。

<http://www.amazon.com/Empire-Illusion-Literacy-Triumph-Spectacle/dp/1568586132>

言えることはこれだけである——確かに今週、急ハンドルが切られたが、これがどこまで本物であるかは、時間がたたねばわからない。

この関連において、私は Alexander Mercouris の “Russian diplomacy achieved a trio of Security Council Resolutions over the last month which give Russia a decisive advantage”

(ロシア外交は過去一か月に、ロシアに決定的な利益となる 3つの安保理決議を実現させた) というタイトルの論文を大いにお薦めする。ここで彼は、いかにロシアが国連安保理で、勝利に次ぐ勝利を勝ち取ったかを説明している。ここで重要なことは、これらロシアの後押しする決議が生まれるごとに、アメリカにとって可能な選択の数が次第に減っていくことである。アメリカのオプションを減らす、もう一つの要因は、シリア軍の戦略的成功であり、その進行は遅々としているが着実だということである。ロシアの空爆のペースの強化は、ダ

エシユに対して効果をもち、シリア軍は、すべての戦線においてゆっくり前進している。ダエシユの崩壊はまだない。しかしシリア軍がこれまで通りに前進を続けるならば、彼らの攻勢はあるとき決定的な点に達して、彼らの小さな（戦略的）勝利は、質的（作戦的）な反攻の契機となり、ダエシユは崩壊し始めるだろう。もちろんダエシユ戦士には、トルコ、ヨルダン、イラク、その他に安全を求めるというオプションはあるが、しかしシリアにおけるダエシユの敗退という心理的な効果は、非常に大きいだろう。

<http://thesaker.is/russian-diplomacy-achieved-a-trio-of-security-council-resolutions-over-the-last-month-which-give-russia-a-decisive-advantage/>

これまで、トルコがシリア北部を侵略したという可能性を示すものはなく、誰かがいまだに飛行禁止区域を設けようと考えている様子もなく、イスラエルの空爆によって **Samir Kuntar** が殺された（私はこれをここで論じた）ことのほかには、**S-400s** 地对空発射台が、予想通りの抑止効果を発揮しているように見える。

<http://thesaker.is/putin-and-israel-a-complex-and-multi-layered-relationship/>

言い換えれば、アメリカのリーダーたちが、彼ら自身の幻想にどっぷり浸かっている間に、現実の出来事はゆっくりと、しかし着実に、ロシアの地歩を強化し、ロシアのスタンスの正しさを証明しつつある。

一方において、太陽暦に従うシリアのキリスト教徒は、ラタキアの通りでクリスマスを祝っているが、これは多宗教のシリアが存在し、未来が存在することの明らかな証拠である。